

川島グループ

21年3月期 売上高 670億円

コロナ脱し目標上回る

非鉄総合商社、川嶋（浜松市西区）を中心とする川島グループ（川嶋義勝代表）は2021年3月期（20年度）の連結決算（速報ベース）が売上高で約670億円、経常利益で32億33億円となったことを明らかにした。新型コロナウイルス禍の影響を脱し、当初見込みの売上高650億円、経常利益30億円をそれぞれ上回った。

同グループの連結決

算はグループ37社の決算時期に差異があるため概算での計上になる。20年度上期は新型コロナウイルスの影響を受け、売上高で前期の約328億円から約263億円まで減少するなど厳しい状況となった。

全般で生産が回復してきたことや非鉄金属相場の高騰などを受け、主力の非鉄金属事業で収益ともに改善した。上期から堅調な動きが続く非金属事業は、新工場を建設するなど好調が続く電動カート事業や産業廃棄物事業、レジャー事業など事業全般で堅調な動きが見

られた。それを受け、通期では売上高で前期の648億円を上回り、経常利益も前期の34億円に迫る水準になるなど、新型コロナウイルス感染症の影響を脱し、利益面でも前期に迫る水準まで回復した。当面は新型コロナウイルス禍の影響が続く

ものとみられるが世界的な経済回復の動きを鑑み、同社では21年度の売上高で720億円、730億円、経常利益では35億円前後を見込んでいる。同グループはアルミ精錬や貴金属スクラップのリサイクル・リユースなど非鉄金属関連分野で、幅広く事業を

展開する総合非鉄リサイクル企業グループ。近年では不動産、レジャー、介護など金属以外にも幅広い分野で事業を展開している。